総合教育臨床センターだより

2019年11月 第2号

総合教育臨床センター主催　公開講演会
「スクールソーシャルワークを活用した児童生徒の支援」 報告

7月30日16時15分から18時まで京都教育大学総合教育臨床センター1 階・教育臨床実習室において長澤哲也先生（一般社団法人　京都社会福祉会理事）をお迎えし，スクールソーシャルワークを活用した児童生徒の支援についての理解を深めました。

初めに，2019年度の京都におけるスクールソーシャルワーカーの活用事業や，ソーシャルワーカーの学校配置の背景についてご説明いただきました。

情報を心理的に整理し内面に働きかけ，個人の世界を大切にするのがスクールカウンセラーであり，情報を生活・法制度から整理し，内面を現実面（生活）につなぎ個人のライフを大切にして環境の調整によってその人の力を引き出すのがスクールソーシャルワーカーであると，その違いについても学びました。

さらに「スクールソーシャルワーカーが考えていること」というテーマでは，①児童生徒の最善の利益を教員と共有，②特に支援が必要な児童生徒の発見・対応，③子どもを中心とした支援の枠組み，④包括的なアセスメント・プランニング，⑤学校とともにソーシャルワークを展開する５点を挙げてお話しいただきました。

後半は，スクールソーシャルワーカーの実際の動きについて，事例を挙げながら説明していただきました。学校配置のスクールソーシャルワーカーは，校内会議のメンバーとして会議に参加し，必要に応じてケース会議の開催を提案したり，教員へのコンサルテーション，生徒指導や教育相談体制への働きかけ，関係機関への働きかけなどを行ったりして活動されていることをうかがいました。

（京都社会福祉士会理事　長澤哲也先生）

事例紹介では，実際に学校で起こった問題に対して，スクールソーシャルワーカーが教員と協働して対策を行っておられる様子をお話しいただきました。スクールソーシャルワーカーは，児童生徒の利益のために，誰がどんな役割を担うべきか的確にアドバイスをされている様子がよくわかりました。

文部科学省の『生徒指導提要』（平成 22 年）には，「チームとしての学校」の一員としてスクールソーシャルワーカーの視点から問題を抱えた児童生徒を支援することが重要とされています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職を含めた「チームとしての学校」が，児童生徒のよりよい支援につながることが大切であるということを教えていただきました。

ご講演後の質疑応答では，スクールソーシャルワーカーが学校という組織でうまく協働するためのポイントなどをお答えいただき，有意義な時間となりました。

附属学校スクールカウンセラーより　－附属高校－

今年度より附属高校でスクールカウンセラー（SC）として勤務させていただいております中井です。附属高校には 10 年程前から SC が配置され，月１回岩瀬カウンセラーが勤務されています。今年度より SC の配置時間が増え，私が加わり２名体制となりました。現在はほぼ週１回 SC が勤務している状態です。

附属高校は道路から少し奥まったところにあり周りが木々に囲まれているため，車の音もせずとても静かです。運動場や中庭には人工芝が敷き詰められていたり，図書室の蔵書数が多かったりと校内の設備が整っています。長期休みに海外への研修旅行や理科的な研究をする生徒も多いようで，様々な分野で活躍する高校生を見ていると何だかこちらまでワクワクしてきます。

高校では基本的に授業が優先になるので，生徒と面接をするのは昼休みと放課後が主になっています。養護の先生がコーディネートしてくださり，相談に来る生徒が少しずつ増えてきました。相談室だよりを見て自分から申し込みに来る生徒もいます。勉強・学校行事・部活・塾などとても忙しい毎日の中で，頑張りすぎて息切れしたり，自分の性格について悩んだりしたときに少し立ち止まって自分を見つめる時間は必要です。早く高校の先生方に顔を覚えていただき，岩瀬カウンセラーとも連携をとりながら，生徒たちの成長を見守っていきたいと思っています。

（附属高校　中井裕子）

心理教育相談室について

平成31・令和元年度　相談件数（4 月～9 月）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
実相談件数	29	29	30	25	21	22
延べ相談件数	50	48	50	42	31	36

個人・家族・学校などの悩みや困った問題について心理的援助を行っています。まずは電話にて，お気軽にご連絡ください。

075-644-8824（月曜～金曜，午前 10 時～午後 4 時）

教育臨床心理実践拠点・スタッフ

兼任教員（センター長）教授　内田利広　　非常勤カウンセラー　岩井秀世（月曜）
兼任教員　教授　森孝宏　准教授　西村佐彩子
相談補佐員　荒井久美子（月・火曜）　山下理佳（水・金曜）　吉岡笙子（木曜）

特別支援教育臨床実践拠点の取り組みについて

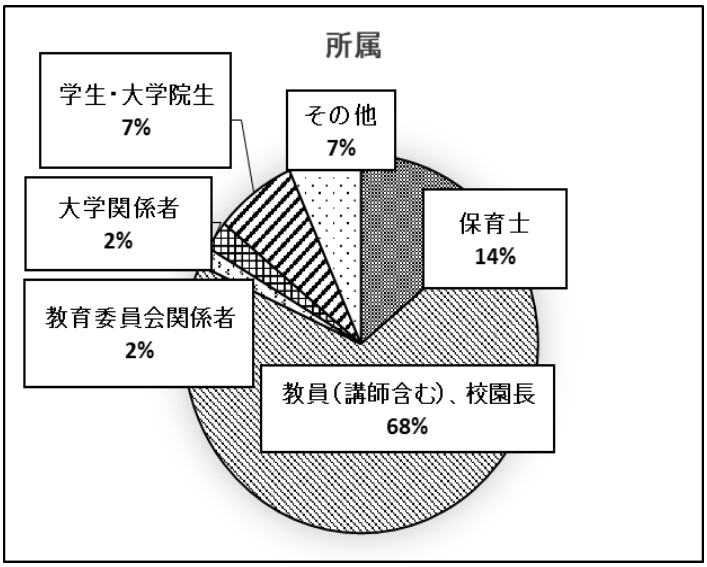
（文責：相澤雅文）

１．第 2 回特別支援教育セミナーについて

特別支援教育実践拠点では，7 月 21 日に特別支援教育セミナーを開催しました。2019 年度第 2 回目の特別支援教育セミナーは、岩田吉生先生（愛知教育大学　准教授）をお迎えして、「幼児期・児童期の言葉の発達の具体的支援方法」－語彙・文法・作文の指導のヒントーという演題でご講義いただきました。

・参加者について

京都府・市、近隣県より、137 名が受講されました。



図：アンケート回答者の所属、n=123

表　アンケート回答者の所属

所属	人数
教員（講師含む）、校園長	82
保育士	17
学生・大学院生	9
大学関係者	3
教育委員会関係者	2
その他	8
無回答	2
計	123

・特別支援教育セミナーの内容

岩田氏は聴覚障害児教育を専門としており、乳幼児期からの言語発達の道筋、言語コミュニケーションの問題領域として「音韻論」、「形態論」、「統語論」、「意味論」、「語用論」などについて述べられた後、指導のあり方について説明された。インリアル・アプローチや AT の活用、語彙指導、文法の指導、文理解の指導、作文の指導について具体的な方策を示されました。

参加された方からは「発達に関する講習会などは今まで受けてきましたが、「ことば」についてこんなに詳しく学べたのはほとんど初めてだと思います。インリアル・アプローチに特に関心を持ちました。今後の保育に生かしていきたいと思います」や「語彙のつけかたでの色々な工夫で、活用できて、楽しめながらできそうな点もよかったです。又、もっともっと学習（自身）の必要性を感じました」、「ワーキングメモリーについての講座や場面緘黙についての理解の講座など、知識や学習方法などを学べて普段の授業に生かすことができた」などのご意見・ご感想をいただきました。

今後も特別支援教育への理解を深めるセミナーを開催していきたいと思います。

２．小集団活動について

特別支援教育実践拠点では，平成 20 年度から、発達相談を受けられている方の中で集団適応が難しい子どもたちを対象とした小集団活動を実施してきました。この活動は、小集団の中でともだちと楽しみながら活動することを通して、かかわりのもち方や社会性を育てていくことを目的としています。一方で、大学の授業の一環として実施しており、将来教員となることを目指している学生の育成の場ともなっています。子どもたちとのかかわりには学生の主体性を活かすよう配慮しています。前期・後期を合わせて８回～10 回の 1 時間程度の活動の中で、学生は子どもたちが興味を持ちそうな課題を回ごとに相談したり準備したりすることを通して、楽しくソーシャルスキルが学べる活動作りを経験します。参加当初は固い表情だった子も回を重ねるごとに打ち解け、リピーターとなって、毎年楽しみにして来てくれる子が多いです。

子どもたちとともに学生が成長していく場として、今後もこのような臨床活動を大切にしていきたいと思います。

発達相談について

特別支援教育実践拠点では、子育てに悩みや課題を感じられている保護者の方々のニーズに応じて、対象児の行動観察及び発達検査の適用による実態把握、発達課題克服に向けた療育・指導を行い、障害の軽減並びに成長・発達の促進をはかっています。

◆相談内容

・発達に関する相談（言語、運動、手遊び、身体の成長など）
・行動/性格に関する相談（こだわり、不安、緊張、注意散漫、多動、神経質、自傷、他害など）
・養育/保育/教育に関する相談（生活リズム、集団行動、学習困難、対人関係、家庭生活と関係機関との連携、地域生活など）
・医療に関する相談（発育、食事や排泄など医療相談一般）

申込方法

予約制となっておりますので、あらかじめ電話でお申し込みください。

電話番号：075-644-8354

相談申込み窓口は、平日午前１０時～午後３時まで（午後０時３０分～１時１５分除く）となっています。

どうぞお気軽にご活用ください。

ホームページ URL
https://www.kyokyo-u.ac.jp

特別支援教育実践拠点・スタッフ

専任教員：相澤雅文
兼任教員：藤岡秀樹，田爪宏二，牛山道雄
佐藤美幸，丸山啓史
相談補佐員：松中修子，福井めぐみ

発売中です

教員になりたい学生のための
テキスト特別支援教育